



敦賀本部

## 【技術交流トピックス】 サイトオープンセミナー開催

8月23日、9月6日に原子炉廃止措置研究開発センター（以下ふげん）及び高速増殖炉研究開発センター（以下もんじゅ）にて、サイトオープンセミナーを開催しました。

このセミナーは、今まで機構が行ってきたオープンセミナーと主旨を変え、作業環境や、実際に行われている作業、研究開発状況等を現場で見えていただくことで、機構が必要としている技術等を地域企業の方々により身近に感じていただく事を目的に実施したものです。

<ふげん>

<もんじゅ>

ふげんでは第3・4給水加熱器の解体現場や、配管の切断に適用を検討しているアブレイシブウォータージェット切断デモを、もんじゅでは予備器・交換品の保管管理状況、供用期間中検査（ISI）の研究開発状況を、また各作業区域での装備品を直に見て頂きました。



アブレイシブウォータージェットの切断デモ



ISI研究開発成果の紹介

参加された方々からのアンケートでは、今後の研究開発課題や、今後の現場での作業等について、自社の技術が活かせないかなどの視点でご意見を多く頂きました。

今後も地域企業の方々のご要望にお応えできるよう様々なセミナーを検討し、開催して行きたいと思えます。

## 【技術相談】 アグリビジネスを目指してPart1

### 「出荷できなかった梅や梅酢から新たな産品を」

三方五湖周辺は、梅加工が盛んですが近年、生理障害等で出荷されない収穫梅、梅干加工の副産物である梅酢の廃棄処分や栽培農家の高齢化で収益に期待できない作業への敬遠などが問題となっています。平成20年5月15日、ワカサ施設管理(株)様から、廃棄梅の高付加価値化などの技術相談を受け、原子力機構では、熱利用に関する研究開発で得られた知見を活かし取組みを開始し、現在、梅の冷凍保存や梅酢からの塩回収、加工作業による高齢化対策など様々な検討を進めています。

平成20年8月1日には、県内の梅に係わる関係機関が一同に介し梅懇談会を開催しました。今後、各関係機関と連携し、全国に発信できる若狭町の特産品に育てていくことを目指します。



梅酢から回生した梅塩



廃棄梅から加工された梅ジュース

### 「品質の良い椿油を」

石油販売の傍ら椿油の製油に取り組んでいる田中石油(株)様(高浜町)から、椿種の乾燥工程の短縮について技術相談を受け、原子力機構ではマイクロ波加熱利用技術等を活用して乾燥実験を実施し、天日干しで1年余りかかる乾燥を数分でできる事を実証しました。

今後、更に乾燥時間の短縮によって搾り出した椿油の成分等に影響がないか検討を行っていきます。



椿油の圧搾工程



乾燥椿種子



椿油は、椿の種子1キロから約350cc程度しか取れないそうです。取れる油は…貴重ですね。( ; )Iツ!?